



子どもの森づくり通信

(発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク)

J P 子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2018年10月号)

〒146-0082 東京都大田区池上 1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
<http://www.kodomonono-mori.net> <mailto:info@kodomonono-mori.net>

「J P 子どもの森づくり運動」とご縁をもちました方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



やっと厳しい夏が終わったと思ったら急に秋めいて、寒暖差の激しい気候となっております。

体調を崩しやすい季節です。自然災害に遭われた方々には、
体調管理に十分に留意して復興作業に取り組んでいただければと思います。

そんな季節の中、今年も東北での“どんぐり”拾いの活動が始まりました。

間もなく皆さんのお手元に東北の“どんぐり”が届きます。大切に育てていただければ願っております。

*写真は、「富良野自然塾ツアー」の環境プログラムで参加者が植えた苗木です。

(目次)

1. J P 子どもの森づくり運動10周年企画「富良野自然塾ツアー」～プログラム体験レポート～
2. J P 子どもの森づくり運動10周年記念「富良野自然塾ツアー」～倉本先生を囲んでのお話会レポート～
3. 防災研修会in「東京ゆりかご幼稚園」レポート
4. 事務局からのお知らせ / どんぐり博士の「育苗日記」(2018年10月号)

■「J P 子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「J P 子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク(「子森ネット」)が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の幼稚園・保育園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「J P 子どもの森づくり運動」運営体制

・運営 : NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク(「子森ネット」)

・特別協賛 : 日本郵政グループ

・後援/協力

(公社) 全国私立保育園連盟

(公社) 大谷保育協会

(公社) 国土緑化推進機構

NPO法人C・C・C富良野自然塾

(一社) 日本森林インストラクター協会

NPO法人自然体験活動推進協議会

NPO法人MORIMORI ネットワーク

(一社) 日本オート・キャンプ協会

(株) 実業之日本社 月刊ガルヴィ編集部

保育環境研究所ギビングツリー



1. J P子どもの森づくり運動10周年企画「富良野自然塾ツアー」～プログラム体験レポート～

2018年10月9日(火)、10日(水)で、「J P子どもの森づくり運動」10周年記念企画として北海道富良野にある「N P O法人C・C・C 富良野自然塾」が運営する「富良野自然塾」環境プログラム体験ツアーが開催されました。自然塾の塾長である倉本聡先生には、「J P子どもの森づくり運動」立ち上げの頃に、活動の理念づくりについてご相談にのっていただきました。その意味で、今回のツアーは、活動10周年の節目の年に運動の原点を訪ねるツアーとなりました。以下、「子森ネット」の理事も務めていただいている福井県「大野幼稚園」藤園長先生にレポートをお願いしました。

紅葉の始まりを迎える北海道富良野において「C・C・C富良野自然塾」の環境プログラムを体験してきました。一日目は「旭山動物園」を含む観光。二日目の8時45分に「富良野自然塾」到着。9時から「富良野自然塾」環境プログラムを体験しました。参加者は「若く青い鳥」岡村 先生、「三和新琴似保育園」菊池修一先生、小池紀子先生、「赤前保育園」小関健一先生「木の実キッズキャンパス」増山和久先生と私「大野幼稚園」藤兼量、そして、事務局の勝目とも子さんを加えた7名です。



はじめに「環境のこと・自然のことを一緒に考えていきましょう」と言うインストラクターの方よりお話があり、次に2人1組で「裸足の道プログラム」を体験。1人が目隠しをしてもう1人が手を引いて誘導し森の中に設定された道を歩く。途中で交代して1周約50メートルを半分ずつ体験する内容のもので、目隠しすることで気配や音や匂いなど普段気づかない情報を体験できました。



次に、「石の地球プログラム」。直径1メートルの石の地球の前で、宇宙の仕組み・月との距離・大きさの比較など、環境学習の基礎となるプログラムだと感じました。そして「46億年・地球の道プログラム」。46億年の歴史を460メートルの距離を使って展示されたものを歩きながら体験するもので、インストラクターの説明が軽妙で楽しめました。



最後に、参加者全員で植樹をしてプログラムは10時40分ごろ終了しました。

2. JP子どもの森づくり運動10周年記念「富良野自然塾ツアー」～倉本先生を囲んでのお話会レポート～

その後アトリエに移ってはいよいよ今回のツアーの目玉企画、倉本聡先生を囲んでのお話会。はじめに参加者が順に自己紹介をし、続いて子森ネット理事の岡村先生から質問の口火を切っていただきました。お話会はこちらの質問に答えていただく形で進められ自然体験・環境学習に対する倉本先生の率直なお考えをお聞かせ頂きました。1時間というお約束の時間の中で、濃密な空気に包まれ、せっかく出してくださったコーヒーにも口をつけれないぐらい緊張してアツという間の時間だった気がします。倉本先生とのお話の内容については、JP子どもの森づくり運動10周年記念「**保育の現場で本当に役立つ自然体験プログラム集**」（仮称 / 2019年3月全参加園に配本予定）の巻頭に掲載されます。お楽しみに。



「富良野自然塾」倉本塾長

* ツアーの詳細は、ホームページをご覧ください。

3. 防災研修会in「東京ゆりかご幼稚園」レポート

2018年10月15日（月）に、関東ブロックを対象にした防災講座が「東京ゆりかご幼稚園」（東京都八王子/内野園長）にて開催されました。講師は、「JP子どもの森づくり運動」スペシャルサポーターであり消防庁アドバイザーの鎌田修広さん。ちょっとしたことから始める、みんなで防災意識を高めるのが大事など、参加した先生方の心に直接届き、行動に結びつく研修会となりました。



4. 事務局からのお知らせ

今年も、東北の“どんぐり”を拾う活動が始まりました。

2018年10月5日(金)に、認定こども園「駒形子どもの杜」(岩手県奥州市)において、「東北復興グリーンウェイ」における東北のどんぐりを拾う活動が行われました。場所は、「種山高原」。参加園児は、年長児(ぞう組)39名です。残念ながら、時期が早く、「種山高原」だけではあまり数が集まらなかったため、後日近所の公園にて追加でどんぐり拾いを実施しました。

そして、10月9日(火)に「駒形こどもの杜」の子どもたちが拾ってくれた東北の“どんぐり”が、「子森ネット」のインストラクター河内さんに手渡されました。“どんぐり”は、かわいい絵の描かれた袋に詰めた状態で準備されていましたが、水による仕分け(*注:虫に食われている“どんぐり”は水に浮くため、拾ってきた“どんぐり”をバケツ等の水につけて仕分けします。)が済んでいなかったため、タライに一度集めてもらい、水による仕分けから実施しました。拾われた“どんぐり”は、事務局経由で全国に届けられますが「駒形こどもの杜」でもポット5個に植え付けられ育てられます。

「東北復興グリーンウェイ」における東北の“どんぐり”を拾う活動は、今年も岩手県山田町、宮古市、宮城県仙台市でも行われ間もなく皆さんのお手元に届きます。東北の子どもたちが一生懸命拾った“どんぐり”です。大切に苗木に育てて下さい。



●どんぐり博士の育苗日記(2018年10月号) ~どんぐりの木のはずなのに?~

どんぐりの最盛期となりました。私が通っている高校の女子生徒たちも、テニスコートに落ちていたどんぐりを拾ってきて、教壇の前にどんぐりの小道を作り上げていました…。「授業がやりにくいのだろうか!!」

「子森ネット」どんぐり博士：河内和男(森林インストラクター)



童心に戻ってしまった女子高生はさておき、どんぐり世代ど真ん中の園児たちには、どんぐりの季節を満喫してもらいたいものです。ところで、皆さんがお住まいの地域のどんぐりの実り具合はいかがでしょう。「東北復興グリーンウェイ」のどんぐりの発信地である東北地方の太平洋側は、概ね良好な実り具合のようです。

さて、園の敷地内に、庭木として木を植えられている園は多いと思います。そして、その木の中に、どんぐりのなる木のはずなのに、ちっとも実を付けないと気にしている木がある園もきっとあると思います。その木はかなり以前に植えられたもののはずです。

これは、木の具合が悪いわけではなく、庭木の管理上致し方ないことなのです。どんぐりのなる木はどれも放っておけば20m程度の大木になってしまいます。そこで庭のような場所では、5~6m程度の高さで幹や太い枝を切り落としてしまいます。そして、そこから新枝をもえ出させて、その新枝を毎年剪定することで、樹高と樹形を整えています。どんぐりは、新枝から分かれた側枝、そこからさらに分かれた小さい枝の先につきます。ここまでには、新枝がもえ出してから3年(樹種による)はかかります。かといって3年も剪定せずにいたら、樹高は10mを超えてしまいその後の管理が大変になってしまいます。

そこで私は、このように管理をされた木を、どんぐりの実を付ける樹形に変えていく実験(?)を、我が家のカシの木で10年ほど続けています。だいぶコツをつかんできましたので、その成果については、別の機会にお話ししたいと思います。